

# 天城湯ヶ島 IC 周辺構想検討協議会レポート 第3号

## 今年度の検討成果を「中間報告」にとりまとめ

第3回協議会では、事務局から経過報告としてWSの検討成果をまとめた「天城湯ヶ島地区全体の将来ビジョンについて」、第2回協議会意見から出された「道の駅計画」、今年度の検討の成果である「天城湯ヶ島 IC（仮称）周辺構想のとりまとめ」についての報告を行いました。

また、国土交通省沼津河川国道事務所から函南「道の駅・川の駅」の先進事例の紹介がありました。

これらの報告や事例紹介をふまえて、協議会メンバーにより、道の駅計画と天城湯ヶ島 IC（仮称）周辺構想とりまとめの2つについて意見交換を行い、中間報告をまとめました。

### <道の駅の計画（コンセプト・機能案）について>

- ・観光客や地域の人の元気や生きがいになるので、ご婦人方の知識や経験を活かした無農薬野菜のマルシェを。
- ・天城湯ヶ島地区の自然を活かして、非日常を味わえる自然体験や農業体験を（例：原価率0の体験メニュー）。
- ・災害時に天城北道路が輸送路を担う場合もあるので、伊東方面の道路整備や、周辺集落で物資備蓄など防災拠点整備を。
- ・観光案内は、南伊豆、東伊豆の市町から連携の要望があり、修善寺駅の観光案内所でも利用者から伊豆半島全体の観光情報の問合せがある。道の駅では、伊豆半島全体のリアルタイムの情報提供が重要。
- ・月ヶ瀬梅林は伊豆市全体の資源として、地域のにぎわい創出に活用を。
- ・子育て世代に魅力的なものがあれば、住む場所として選ばれるかもしれないので、親子の遊び場整備は重要。
- ・ICの整備にあたって、国道 414 号での慢性的な渋滞発生や道路整備にともなう転出が懸念としてあるので、避けられるよう十分に配慮を。

### <天城湯ヶ島 IC（仮称）周辺構想のとりまとめ「中間報告（案）」について>

- ・道の駅のコンセプトには、生きがいについても考慮していく。
- ・地域の人が日常的な利用、川との連続性という点で、よくある道の駅との差別化を。
- ・今後の検討では、道の駅だけでなく、周辺地域にも機能を散りばめる発想で検討を（IC 周辺 500m圏なら、より自由な発想ができるのではないかな）
- ・資源の活性化や地元の協力もあるため、名称は地域の意見を聞いて検討を。



協議会風景

## 検討協議会の今後

- 天城湯ヶ島 IC 周辺構想とその実現を目指し、来年度は下記の協議会、ワーキング部会の開催をします。
- 地方創生 WS を本協議会のワーキング部会として、本協議会を再編し継続していきます。
  - ワーキング部会では、道の駅の役割や空間の使い方について議論・提案を行います。
  - 協議会では、ワーキング部会の提案等について、承認、助言、地域への周知を行います。（年3～4回程度）

天城湯ヶ島 IC 周辺構想検討協議会レポート 第3号：平成28年3月

発行：伊豆市 総合政策部 総合戦略課

お問い合わせ先： Tel：0558-72-9873